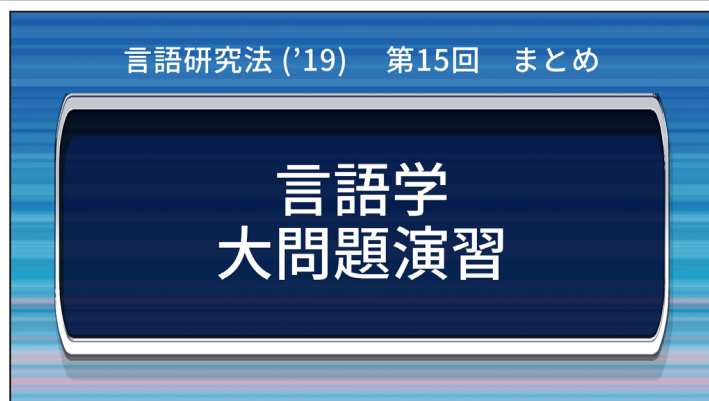


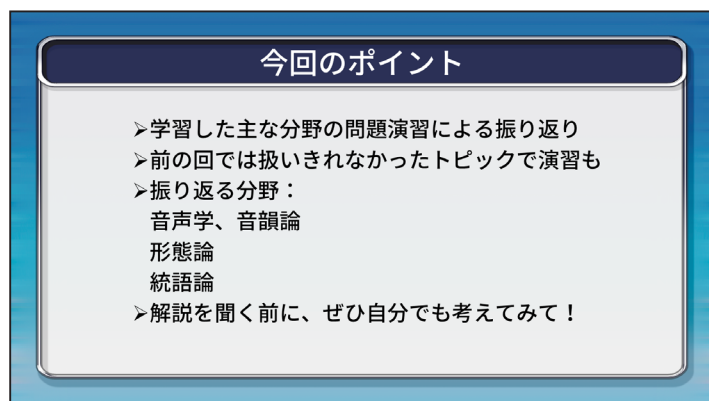
言語研究法 ('19)

第15回 まとめ 15-1

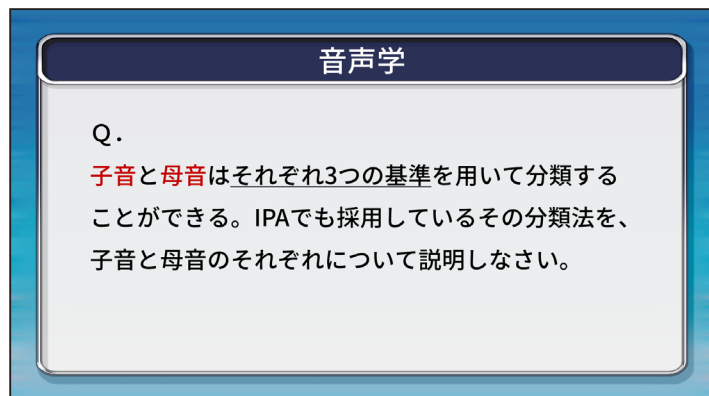
1



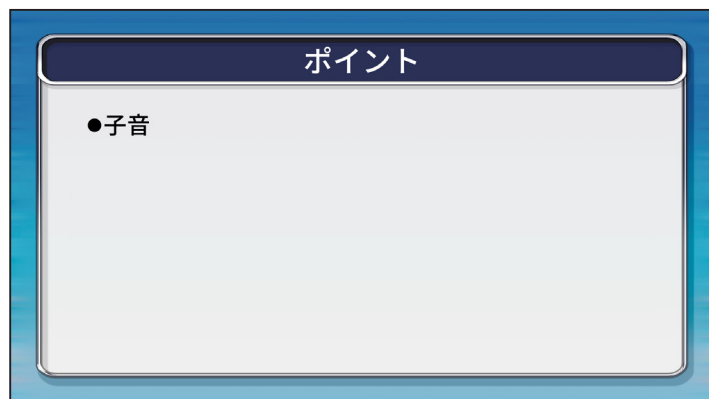
2



3



4



言語研究法 ('19)

第15回 まとめ 15-1

5

ポイント

●子音

①声の有無 [有声／無声]

調音時に声を伴っているか否か (→「参考」)

5

6

ポイント

●子音

①声の有無 [有声／無声]

調音時に声を伴っているか否か (→「参考」)

②調音位置(点) = 狭めの形成される場所

唇、歯、歯茎、硬口蓋、軟口蓋、口蓋垂、咽頭、喉頭

15

7

ポイント

●子音

①声の有無 [有声／無声]

調音時に声を伴っているか否か (→「参考」)

②調音位置(点) = 狭めの形成される場所

唇、歯、歯茎、硬口蓋、軟口蓋、口蓋垂、咽頭、喉頭

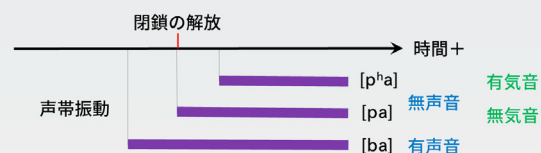
③調音方法(様式) = 形成される狭めのタイプ

閉鎖、閉鎖(鼻開放)、摩擦、破擦、そり舌、側面、etc.

25

8

ポイント

参考：声立てのタイミングと音の種類
(Voice Onset Time: VOT)

35

言語研究法 ('19)

第15回 まとめ 15-1

9

ポイント

- 母音

10

ポイント

- 母音
舌の最高点に関して

11

ポイント

- 母音
舌の最高点に関して
前後 [音調の高低] iで高く uで低く

12

ポイント

- 母音
舌の最高点に関して
前後 [音調の高低] iで高く uで低く
広狭 [共鳴性] i uで小さく aで大きく

言語研究法 ('19)

第15回 まとめ 15-1

13

ポイント

●母音

舌の最高点に関して

前後 [音調の高低] iで高く uで低く

広狭 [共鳴性] i uで小さく aで大きく

唇に関して

14

ポイント

●母音

舌の最高点に関して

前後 [音調の高低] iで高く uで低く

広狭 [共鳴性] i uで小さく aで大きく

唇に関して

丸めの有無 [円唇／非円唇]

第15回 まとめ 15-2

15

音韻論1

Q.

音韻論では、ある2つの音があったとき、それらが別々の音素に属する音なのか、同じ音素の異音なのかを判定することが重要となる。この「**異音**」に大きく2つの種類が区別されることを、具体例を挙げながら説明しなさい。

16

ポイント

●異音の分布に関して

① 条件(環境)によって分けることができる場合

→ このとき、「**相補分布**」

条件 x のとき音A、条件 y のとき音B、

かつ、条件 x と y の間に重なりがない

17

ポイント

●異音の分布に関して

② 条件づけることができない場合

→ このとき、「**自由変異**」音Aや音Bが、個人差等によって自由に出現する

18

ポイント

●具体例：

① 日本語 **モーラ音素** /Q/ における**音声実現形** [p, t, k, s] 等← すべて後続音(=環境)が異なる

言語研究法 ('19)

第15回 まとめ 15-2

19

ポイント

●具体例：

- ①日本語モーラ音素 /Q/ における
音声実現形 [p, t, k, s] 等
← すべて後続音(=環境)が異なる
- ②日本語 **ザ行音素 /z/** における **摩擦音[z]** と **破擦音[dz]**
<例> 「アフリカゾウ」

20

音韻論2

Q.

超分節素の「アクセント」と「イントネーション」を
機能上の共通点と相違点に着目して説明しなさい。

21

ポイント

- 共通点と相違点①
アクセントもイントネーションも「**弁別的機能**」をもつ
(=意味の異なるものとして区別する働き)

22

ポイント

- 共通点と相違点①
アクセントもイントネーションも「**弁別的機能**」をもつ
(=意味の異なるものとして区別する働き)

アクセントは「**語**」を区別する
<例> 「試案 (LHH)」 vs 「思案 (HLL)」

言語研究法 ('19)

第15回 まとめ 15-2

23

ポイント

●共通点と相違点①

アクセントもイントネーションも「**弁別的機能**」をもつ
(=意味の異なるものとして区別する働き)

アクセントは「**語**」を区別する

<例> 「試案 (LHH)」 vs 「思案 (HLL)」

イントネーションは「**文**」の種類を区別する

<例> 日本語で、文末↘は平叙文、文末↗は疑問文

24

ポイント

●相違点②

アクセントは単位としてのまとまりに応じて変わる
(**境界表示機能**)

イントネーションは話者の心理状態に応じて変わる
(**心情的機能**)

25

ポイント

●相違点②

アクセントは単位としてのまとまりに応じて変わる
(**境界表示機能**)

イントネーションは話者の心理状態に応じて変わる
(**心情的機能**)

アクセント <例> ビジネス(HLLL)+ホテル(HLL) **語単位**
→ビジネスホテル(LHHHLL) **句単位**

イントネーション <例> 英語の文末で曖昧なイントネーションが自信のなさを表す

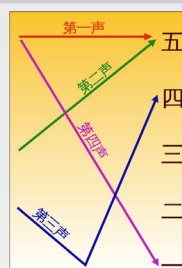
26

ポイント

参考：トーン（声調）

個々の**音節**にかかる超分節素が
「トーン（声調）」

<例> 中国語（普通話）



言語研究法 ('19)

第15回 まとめ 15-3

27

形態論

Q.
形容詞に「です」を付けた丁寧形（例: おいしい+です→おいしいです）は、元来は文法的な誤りで、正しい形は「ございます」を付けた（ウ音便の）形（おいしい+ございます→おいしゅうございます）だった。このような〈形容詞+です〉の形が生じたプロセス（背景、誘因等）を推定しなさい。
次に、動詞に「です」を付けた丁寧形（例: 行く+です→行くです）についてはどうか、考察しなさい。

28

考えてみよう

- なぜ誤り？
- ・「です」は「だ」の丁寧形 → 体言+です
- ・「美味だ」のようなナ形容詞（語幹が名詞的）ではOK
- ・イ形容詞では「*おいしいだ」とは言えないので、その丁寧形も誤り
- ・ところが、助動詞「だろう」（「だ」の未然形に「う」が付いた形）を付けると容認度上がる（「おいしいだろう」）
- ・その丁寧形も同様（「おいしいでしょう」）
- ・元来の「ございます」は現代語では丁寧すぎて違和感あり
- ・S27年に国語審議会「これからの敬語」も「です」形を容認

29

考えてみよう

- 動詞では？
- ・動詞の丁寧形は、動詞連用形+ます
- ・「行くです」のような形は非標準で、赤ちゃん言葉的
- ・とはいえ、「だろう・でしょう」を付けるとOK（「行くだろう」、丁寧形「行くでしょう」）
- ・「行くでしょう」→「行くです」の派生もあり得る？

30

統語論

Q.
日本語受身文には、「太郎が先生に叱られた」のようなタイプと「太郎が母親に泣かれた」のようなタイプがあり、前者では動作（等の）主体が主語である客体に直接作用を及ぼすのに対して、後者では動作などの結果から主語である客体が間接的に影響を受けることが表されている。これらの「直接受身文」と「間接受身文」について、文構造の観点から説明しなさい。

言語研究法 ('19)

第15回 まとめ 15-3

31

考えてみよう

- 対応する能動文があるか？
 - ・[直接受身] 「太郎が先生に叱られた」
[能動文] 「先生が太郎を叱った」
 - ・[間接受身] 「太郎が母親に泣かれた」
[能動文] ナシ（「*母親が太郎を泣いた」）
成り立つ能動文は「母親が泣いた」

32

考えてみよう

- 受身文と能動文で項の数を比べると？
 - ・直接受身文の場合は同じ（項2つ）
 - ・間接受身文の場合は異なる
受身文では2つ、能動文では項1つ（「母親が泣いた」）
 - ・受動文で項が多いことの意味
- [太郎が [母親が泣く] れた] のような意味=統語構造
- 能動文の内容を受動文の主語が受けている
動作の影響を間接的に受けているということ

33

言語の取扱い方

- 言語のバリエーション
 - ・諸言語のバリエーション
 - ・言語内のバリエーション

空間的バリエーション（語族；方言）
時間的バリエーション（言語の系統；歴史）
構造的バリエーション（表層と深層, etc.）

34

言語学

違いのわかるひとになるために